

プロだからこそ、 日々の努力を欠かさず お客様の信頼を得る

木下さんは、日本でのネイル技術の普及に努め、高い評価を得てきました。そのお話からは、高いプロ意識を持って研鑽を重ね、お客様の信頼を得ることを大切にする姿勢がうかがえます。

きのした・みほり ● 東京都生まれ。母は映像メイクアップ&ネイルの創始者“木下ユミ”。大学卒業後、母の仕事を受け継ぎ美容の道へ進む。数多くのタレント・モデル・CM・映画のヘアメイクを担当。日本におけるネイリストの教育活動、ネイル技術の普及に尽力。美容に関する数々の賞を受賞。「令和3年度 東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞」「令和4年度 東京都産業功労者」表彰 受賞。現在、株式会社ユミ・クリエーション代表取締役社長のほか、木下ユミ・メイクアップ&ネイルアカデミー校長、「ラ・クロ・ヌ ネイルサロン」代表、NPO法人日本ネイリスト協会理事を務める。

ビューティーアーティスト／
ネイリスト

木下美穂里さん



クリエイティブな関心から
ネイリストの道へ

—— お母様も美容の世界でご活躍された方で、日本のメイクアップの草分け的な存在でいらつしやいますね。

木下 私の父と母は、日本で初めてヘアメイクの会社を設立し、テレビの放送開始期から各放送局に事務所を設けていました。父が会社の経営を担当し、母はスタッフと共にドラマやコマーシャルに出演する方々のメイクアップを担当しました。そのほかにも演劇やファッションショーなどの出演者のメイクも行いました。「ヘアメイクアップアーティスト」という言葉を創ったのも母です。そんな父母のもとには、世界中から美容に関する最先端の情報が集まり、私もそれらに接していました。母はヘアメイクのほかにネイルも行っていました。当時ネイリストは、世界では職業として確立されていたのですが、日本ではこれからという状態でした。そんな中で父と母が日本ネイリスト協会の設立メンバーとして役員となりました。

—— そうした環境で過ごされたから、ご自身も美容の道に進もうと思われたのですか。

木下 実は、私はもともと絵を描いたり、写真を撮ったりするのが好きで、大学では写真とアートデザインを専攻していました。私の場合は、自分が美しくなりたいとか、誰かを美しくしてあげたいという美容そのものより、アートを表現する対象としてネイルの世界に進んだのです。

からです。つまり自分が好きなことの先にネイリストという仕事があったというところかもしれません。私のように、クリエイティブな関心からネイリストという職業を選ぶ方は少なくありません。

高い技術に裏打ちされてこそ
プロとしての仕事ができる

—— 一般的にサロンにおけるネイリストのお仕事はどのようなことから始まるのでしょうか。

木下 多くの場合、ご予約のお電話をいただき、施術の日時を決めることから始まります。初回の予約を承るといふことは、お客様との最初の出会いになるわけですね。お客様にご迷惑をかけるためにも、時間管理はしっかりとしなければなりません。

お客様にご来店いただいたら、カウンセリングを行います。お客様のご要望をお聞きすると同時に、年齢やキャリアを確認し、私たちがメニュー提案をさせていただくこともあります。また、化粧品に対するアレルギーや指にけがをしていらつしやらないかも確認します。加えてお困りになっていることもお伺いしたうえで、最終的にどんな施術をするか、そしてそれにかかる時間が決まります。時間が決まれば料金も決まりますので、ご承諾をいただいて施術に取りかかります。

—— お客様としっかりコミュニケーションを取ることも大切なんですね。

木下 ネイリストの仕事は爪や手足に施術をさせていただくことですが、お客様とコミュニケーションを取る「接

客」という重要な要素があることを忘れてはいけません。現在ネイリストとして活躍していらつしやる方からは、もともと人と関わるのが苦手だったという声も聞こえてきます。でも、自分が必要とされていると感じることができれば、そうした苦手を克服することができるようになります。私自身がそうでしたから……。

器用な方なら、他者と関わらずに自分の爪にそれなりのネイルをすることができるようでしょう。しかし、プロのネイリストは、お客様としっかりコミュニケーションを取り、高い技術でより素敵なネイルをして差し上げることが出来る——そこにネイルがビジネスとして成り立つ理由があるのです。

常に自分を高める努力の中で
得られる達成感

—— どんときやりにやりがいや喜びを感じるのでしょうか。

木下 何といっても施術が終わった後、そのお客様から次の予約をいただいたときですね。そんなときは「自分の施術にご満足いただけたかも!!」という思いが胸に広がります。それは安堵感に近いものかもしれませんが、それを何度も積み重ねていくと「お客様が自分を認めてくださったのだ」という達成感を覚えます。

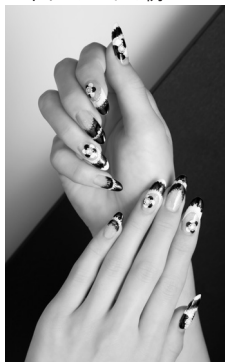
また、より高い技術を身につけることを自分の目標とし、それが達成できたときはうれしいですね。ネイリストの技能検定試験^{※1}があるのですが、それを受けると自分が持つ技術の

※1 主催：公益財団法人日本ネイリスト検定試験センター・NPO 法人日本ネイリスト協会 他

※2 日本ネイリスト協会 Web サイト <https://www.nailor.jp/>

▶施術講習の様子。ネイリストは常に新しい技術を学ぶ努力が欠かせない。

▼ネイルアートの例



▼講演会の様子



客観的な評価を知ることができます。その技能試験でより上級を目指し、合格できたときは大きな達成感を得られます。そうした達成感がより高いポジションにチャレンジしようという意欲を生み、次の成長につながるのです。

——ネイリストの仕事はチームワークが大切だと聞きました。

木下 そのとおりです。もし自分がないときでも、きちんとお客様に対応できるチームスタッフがいることはとても心強いです。それはスタッフの教育がしっかりできていて、スタッフ間のコミュニケーションも十分に取れていることの表れでもあります。

そうすることがお客様からの信頼につながり、ひいては店の高評価にも結びつくのです。

——ネイリストのお仕事の厳しさはどのようなところにありますか。

木下 ネイリストは細心の注意を払って施術を行います。すべてのお客様にご満足いただけるには限りません。時にはクレームをいただくこともあります。そのようなときにどう対応するかは難しい問題です。また、より高い技術を身につけようと努力しても、なかなか自分のものにならないこともあります。本人はその壁をどう乗り越えるかという課題に必死に向き合わなければなりません。

加えて、ネイリストは常に新しい技術を学ぶ必要があります。施術に使う様々な材料は日々進化し、それに伴って技術も進歩します。ネイリストはこの2つの方向からの進化に対応するた

めに、学びを欠かすことはできません。それが楽しみや喜びでもあります。

——これからネイリストを目指す若い人たちへのメッセージをお願いします。

また、学校の進路指導の先生方に望むのはどのようなことでしょうか。

木下 私は、自分の将来像を描けなくなった若者が、ネイルと出会うことで進むべき道を見つかる姿をたびたび見てきました。

ネイリストの仕事に興味を持ったなら、ネイルサロンで施術を受けてみてはどうでしょうか。そうすると自分の仕事上の先輩となるかもしれないネイリストがどんなふうに関わり合っているのかが見えてきます。それはある種の職場体験で、ネイリストの仕事により深く知るきっかけとなるはずです。そして「本当にこの仕事に興味があるのか」「本当にこの仕事が好きなのか」を自分で確認してください。

学校の先生方がネイリストの仕事やネイルの業界についてもっと知りたいときは、日本ネイリスト協会^{※2}などの団体の活動を見ていただければ、ネイリストに対する社会的信頼をさらに高めるために、私たちが真摯に取り組んでいることがおわかりになると思います。

ネイリスト（A領域に近いS領域）のタスクとその領域

厚生労働省「job tag」をもとに編集部で作成

主な仕事 爪を手入れし、形を整え、ネイルカラーを塗ったり、模様を描いたりして、美しく装う。

領域*	タスク（実施順）
S R	甘皮を処理し、爪の表面を磨く。爪やすりを使って爪の形を整える。割れている爪を補修する。
S R	爪にクリームを塗って栄養を与える。手全体をパックしたり、マッサージをする。
S A R	爪にベースコートやカラーを塗る。
S A	爪にアートを施すため、細い筆で模様や絵を描く。
S R A	爪にアートを施すため、エアブラシを操作する。
S A R	爪にアートを施すため、様々な素材を立体的に貼り付ける。
A R	絵や、ストーンなどを装飾した付け爪を作る。
A R	人工爪を作って、その上に装飾を施す。
S I	顧客に爪の手入れ方法を説明し、顧客の質問に答える。
S E I	ネイル関連商品を販売する。

*それぞれのタスクに関連の高い職業興味領域（左からウエイトの大きい順）

す。また、ネイリストの待遇や雇用条件も、ほかの業界と比べて見劣りしないものだといいことをご理解いただけたら有難いですね。ネイリストになりたい生徒さんに関わり合うとき、ネイリストを選ぶということは、好きを仕事にできるすばらしい道だと伝えていただければと思います。

（職業研究 2023年 No.1より）